

令和4年度行政事業レビューシート (文部科学省)

事業名	コロナ禍後の社会におけるユネスコ活動を通じた持続可能な社会づくり			担当部局庁	国際統括官付	作成責任者					
事業開始年度	令和3年度	事業終了(予定)年度	令和3年度	担当課室	国際統括官付	国際戦略企画官 白井 俊					
会計区分	一般会計										
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-			関係する 計画、通知等	-						
主要政策・施策	-			主要経費	その他の事項経費						
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により学びの在り方を含めた社会の在り方が大きく変わる中、「新たな日常」の実現に向けた社会変革の推進力となる人材、地球規模の課題を自分事として捉え、何が出来るかを主体的に考える力を発揮できる人材の必要性が増大しているため、本事業を通じて、若者に対して、新たな日常における学び、交流の場を提供する。										
事業概要 (5行程度以内。 別添可)	2021年が日本のユネスコ加盟70周年となることを契機とし、未来を担う若者が、予測不可能な禍が起こり得る状態の中で、社会・地域が直面する課題に対するユネスコ活動を通じた取組を共有するとともに、新たな学びの在り方やポストコロナにおけるユネスコの役割についてメッセージをとりまとめ世界に発信する。具体的には、Youth Conferenceを開催し取組を紹介するとともに、新型コロナウイルス感染症のような予測不可能で未曾有の事態を引き起こすような災害が起きた時にどうしたら良いか等、ユネスコの理念・活動の観点から議論を行い、メッセージをまとめ、国内外に発信する。										
実施方法	直接実施、委託・請負										
予算額・ 執行額 (単位:百万円)			令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度要求				
	予算 の 状 況	当初予算	-	-	12.4	-	-				
		補正予算	-	-	-	-	-				
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-				
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-				
		予備費等	-	-	-	-	-				
	計		0	0	12.4	0	0				
	執行額		0	0	2						
	執行率 (%)		-	-	16%						
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合 (%)		-	-	16%						
令和4・5年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目		令和4年度当初予算	令和5年度要求	主な増減理由						
	国際協力推進事業委託費		0	0							
	委員等旅費		0	0							
	計		-	-							
活動内容 (アクティビ ティ)	2021年が日本のユネスコ加盟70周年となることを契機とし、未来を担う若者が、予測不可能な禍が起こり得る状態の中で、社会・地域が直面する課題に対するユネスコ活動を通じた取組を共有するとともに、新たな学びの在り方やポストコロナにおけるユネスコの役割についてメッセージをとりまとめ世界に発信する。具体的には、国内外の若者を主体としたYouth Conference、ユネスコの理念・活動の観点から議論を行い、メッセージをまとめ、国内外に発信する。										
活動目標及び 活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込		
	若者が主体となったユネスコ活動の実施	本事業への参加者数	活動実績	人	-	-	81	-	-		
			当初見込み	人	-	-	100	-	-		
単位当たり コスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込			
	執行額/本事業への参加者数		単位当たり コスト	百万	-	-	0	-			
			計算式	百万円/人	-	-	2.3/81	-			
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度		
	ユネスコ活動及びコロナ禍における新たな学びの在り方に対する参加者及び関係者の意識が向上する	本事業を通じた活動の参加者に対するアンケートで、「今後の活動に参考になった」と答えた者の割合	成果実績	%	-	-	94	-	-		
			目標値	%	-	-	80	-	-		
			達成度	%	-	-	118	-	-		
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	Youth Conference参加者へのアンケート結果										

政策評価、新経済・財政再生計画との関係	政策	13 豊かな国際社会の構築に資する国際交流・協力の推進		
	施策	13-2 国際協力の推進	政策評価書 URL	https://www.mext.go.jp/content/20211224-mxt_kanseisk02-000019646_13-2.pdf
			該当箇所	施策目標 13 -2-3

事業所管部局による点検・改善

項目		評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	Withコロナ、ポストコロナの時代における教育の在り方を検討し、若者に対して新たな日常における学び、交流の場を提供する本事業は、コロナ禍において国民や社会のニーズが高い事業である。また、ユネスコ活動はSDGsの達成及びその基盤となるESDの推進に資するものであり、ユネスコ活動の普及啓発等を行う本事業は地域活性化等の課題解決にもつながるため、その観点からも国民や社会のニーズが高い事業である。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	国内外の多様なステークホルダーを結集し、日本におけるユネスコ活動の発信及びユネスコに対する戦略的なメッセージの発信を行う本事業は、国が主体的に実施すべきものである。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により学びの在り方を含めた社会の在り方が大きく変わる中、「新たな日常」の実現に向けた社会変革の推進力となる人材、地球規模の課題を自分事として捉え、何ができるかを主体的に考える力を発揮できる人材の必要性が増大しているため、本事業を通じて、若者に対して、新たな日常における学び、交流の場を提供することは優先度が高いと言える。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	支出先の選定に当たっては、十分な公告期間を確保したうえで、事業説明会を早期に実施し競争参加者の検討時間の確保と事業への理解促進に努めた。
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	技術審査にあたり適正に審査職員を選定して妥当性を確認した。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	-	-
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○	契約時等に支出の妥当性を検証しており、中間段階での支出は合理的なものとなっている。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	技術審査にあたり適正に審査職員を選定して妥当性を確認する他、委託契約締結時に事業経費の費目、使途の内容を厳正に精査した。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○	新型コロナウイルスの影響により、若者の外国派遣を実施することができなかった。また、最低価格落札方式での委託契約のため、費用を抑えられた。
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-	
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	過去に実施した事業の実績を踏まえ、コスト削減や効率化に向けた工夫を行った。	
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	参加者からは高い満足度を得ることができ、成果目標を達成できた。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	技術審査にあたり適正に審査職員を選定して妥当性を確認する他、委託契約締結時に事業経費の費目、使途の内容を厳正に精査した。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	活動実績は概ね見込みのとおり達成できた。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	成果物については今後ホームページ等に掲載予定である。
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	-
	事業番号	事業名	

点検・改善結果	点検結果	2021年が日本のユネスコ加盟70周年となることを契機とし、若者の声を国内外のユネスコ活動に反映させるべく組織した「次世代ユネスコ国内委員会」のメンバーが、社会・地域が直面する課題に対するユネスコ活動を通じた取組を共有するとともに、国内外の次世代が主体的・継続的に関わることのできるユネスコ活動について、若者の視点から議論を重ねまとめたアクションプランを国内外の若者がより発展させ、実行に移すための議論を行った。参加者の満足度も高く、目標値を達成することができている。
	改善の方向性	

外部有識者の所見

外部有識者による点検対象外

行政事業レビュー推進チームの所見

終了予定	この事業は当初計画に基づき、令和3年度をもって予定通り終了。 今後は、成果指標の一層の工夫について留意しつつ新たな事業を構築すべきである。 本事業により得られた成果については適切に活用すること。
------	---

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

予定通り	当該事業は、当初計画通り令和3年度をもって終了する。
------	----------------------------

備考

○日本ユネスコ国内委員会Facebookページ <https://ja-jp.facebook.com/jpnatcom/>
 ○ユネスコ活動に関する法律 <http://www.mext.go.jp/unesco/009/002.htm>

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成23年度				
平成24年度				
平成25年度				
平成26年度				
平成27年度				
平成28年度				
平成29年度				
平成30年度				
令和元年度				
令和2年度	文部科学省	新03	0032	
令和3年度	2021	文科	新21	0019

※令和3年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位: 百万円)

文部科学省
2.3百万円

委員等旅費
0.1百万円
を含む

Youth Conferenceの開催

一般競争契約
(最低価格)

A. 株式会社イー・シー・インターナショナル

(Youth Conferenceの開催)

【再委託】
随意契約(その他)

B. 株式会社スタジオエイエス
0.3百万円

(Youth Conferenceの開催
(配信業務機材及び運用一式))

費目・使途
(「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

A.			B.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
事業費	諸謝金、旅費、借損料、消耗品費、会議費、通信運搬費、雑役務費、消費税相当額	1.3	再委託費	配信業務機材及び運用一式	0.3
人件費	会議運営等業務(株式会社イー・シー・インターナショナル)	0.5			
再委託費	再委託費	0.3			
一般管理費	一般管理費	0.2			
計		2.3	計		0.3

